

## 2014/15年 南極海鯨類目視調査の出港について

一般財団法人 日本鯨類研究所  
東京都中央区豊海町4番5号  
電話 03-3536-6523  
(担当: 総務部広報課)

HP アドレス <http://www.icrwhale.org>

### 1. 調査の概要

今回の目視調査は、2014年5月に開催された国際捕鯨委員会(IWC)/科学委員会(SC)が全会一致で承認した計画に基づき、南極海において、調査船2隻による目視調査およびバイオプシー試料の採集などの非致命的調査を行います。今回の調査では、クロミンククジラなどの鯨類の資源量の推定に必要な目視データを収集することを主目的としています。併せて自然標識の記録(写真撮影)やバイオプシー試料の採集も行い、これら鯨類の資源管理に有用な情報を収集することにしています。

調査船勇新丸及び第二勇新丸は2015年1月8日に下関港より出港し、南極海で目視調査を実施し、3月上旬に目視調査を終了し、3月28日に日本に帰港する予定です。調査海域は、IWCの管理海区の一つの第IV区で、南緯60度以南の東経70度から130度までの海域(図1)です。

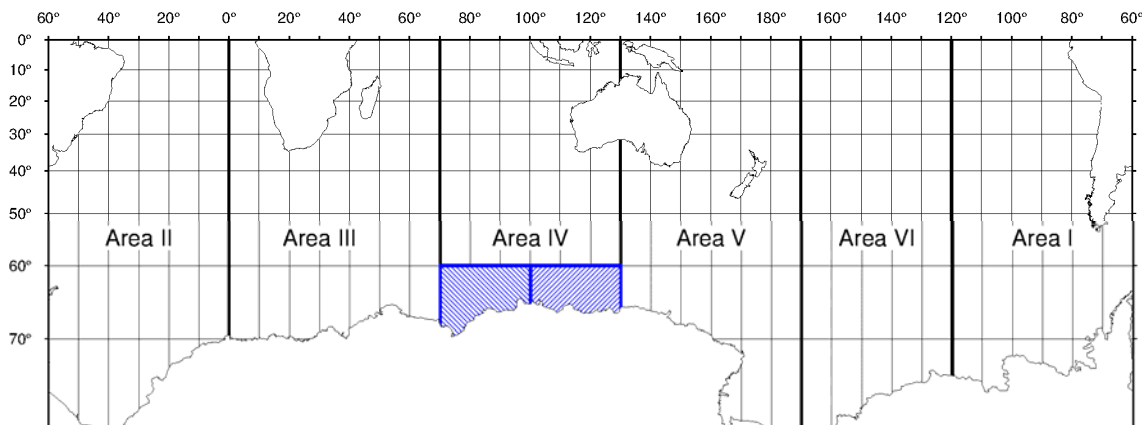


図1. IWC ヒゲクジラ管理海区と本年度の調査海域(青色線で囲まれた海域)

### 2. 調査団の編成

#### 2.1. 調査実施機関

2.2. 調査船と乗組員数(含む調査員)

目視専門船	勇新丸	(724トン)	大越 親正船長以下	20名)
目視専門船	第二勇新丸	(747トン)	阿部 敦男船長以下	22名)

注)この他、日新丸(8,145トン、小川 知之船長以下 51名)が、調査船への補給船として従事します。

2.3. 調査員

調査団長 松岡 耕二(一般財団法人日本鯨類研究所 調査研究部室長)  
他3名の計4名

2.4. 調査活動

- 1) 目視調査(資源量推定等を目的としたもの)
- 2) バイオプシー試料の採集(DNA情報等の収集を目的としたもの)
- 3) 鯨体の自然標識の写真撮影(回遊経路等の把握を目的としたもの)
- 4) その他

(参考)

1. 目視調査のみを実施することから、調査船から捕鯨砲を取り外した(写真1)。
2. バイオプシー試料採集に使用する採集機器(写真2、3)。
3. 補給船日新丸は、調査船等への補給のみを目的として使用する。
4. このほか、水産庁監視船として第二昭南丸が運航される予定。



(写真1) 捕鯨砲を取り外した目視調査船勇新丸(上図)と第二勇新丸(下図)



(写真2) バイオプシー試料採集のために使用するラーセン銃 (上:機材一式、下:組み立て後)



(写真3) バイオプシー試料採集 (左:バイオプシーダーツ、右:採集した組織)